

* 深よみめんこちゃん *

～りす組～ 「できたよ できた」

Sくんがスコップで地面を掘って遊んでいるのを見たNちゃんが、スコップを持って傍に行き、近くの場所を掘り始めました。SくんはそんなNちゃんを気にすることなく夢中で遊んでいます。しばらくすると二人の間には掘った砂で山ができていました。保育士が「お山できてるね、すごいね」と声を掛けたことで、初めは各々遊んでいた2人が「Sくんと作ったの！おっきいのできたよ」とNちゃんが言い出し、つられてSくんも「おっきい！おっきい！」と喜びます。その後、2人で「山できたね」「(砂を触って) ここ冷たい」「つったい？(と言いながら砂を触る)」など、やり取りする姿が見られました。一人一人の遊びが、保育士の声掛けをきっかけに子ども同士で関わることでできた場面でした。この頃、周りの友達に興味をもつようになり、相手の言葉や体の動きを真似たり、エプロンや靴下などの着脱を手伝ってあげたりするなど、保育士を通して友達と関わる姿が増えています。まだまだ子ども同士で遊んだり、関わったりすることは難しいので、保育士が一人一人の思いを受け止めながら言葉を引き出しつつ、やり取りを広げていきたいと思います。



こんなふうに育ててほしいなあ・・・

友達と過ごすことの楽しさや心地よさを感じられるようになってほしいな！

～きりん組～ 「みて！みて！」

「ねえねえみてみて！」とSくん。空を見上げるといつもと違う雲の形を見つけました。「あそこの形、だんごみたい」「イルカにみえるよ」などと友達と一緒にイメージを伝え合っていました。しばらく雲の様子を観察していると、目の前がトンボでいっぱいになり、すぐに散って行ってしまいました。突然の出来事にその場にいた全員が驚き、目と目を合わせて「すごかったね！」と微笑み合いました！

身近な自然での何気ない一コマが子ども達の想像力の豊かさや心を育てていくこと、また、思いを共有することで友達と繋がったり、一人では思いつかなかった考えが生まれてきたりするんだなあと感じました。今後も身近な自然に親しみ、四季を感じながら子ども達と一緒にたくさん経験を重ねていきたいと思います。



こんなふうに育ててほしいなあ・・・

身近な環境や自然と触れ合う中で、様々な事象に興味をもって関心を深めてほしいな！